

平成 22 年（2010 年）の大雪山の火山活動

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○2010 年の活動概況

・噴煙及び熱活動（図 1～6）

旭岳地獄谷爆裂火口の噴煙の高さは火口縁上 200m 以下で、噴煙活動は低調に経過しました。

11 月 18 日に北海道開発局の協力を得て、上空からの観測を実施しました。旭岳地獄谷爆裂火口では中～下部にある複数の噴気孔から、高さ 50m 程度の白色の弱い噴気が認められました。赤外熱映像装置¹⁾による観測では各噴気孔に対応した高温域が認められましたが、これまでの観測と比べて特段の変化はありませんでした。御鉢平では噴気及び地熱域は認められませんでした。

・地震活動（図 1、表 1）

火山性地震は一日あたり 6 回以下で、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

表 1 大雪山 地震・微動の月回数（図 6 の旭岳姿見東で計数）

2010 年	9 月	10 月	11 月	12 月
地震回数	20	20	8	9
微動回数	0	0	0	0

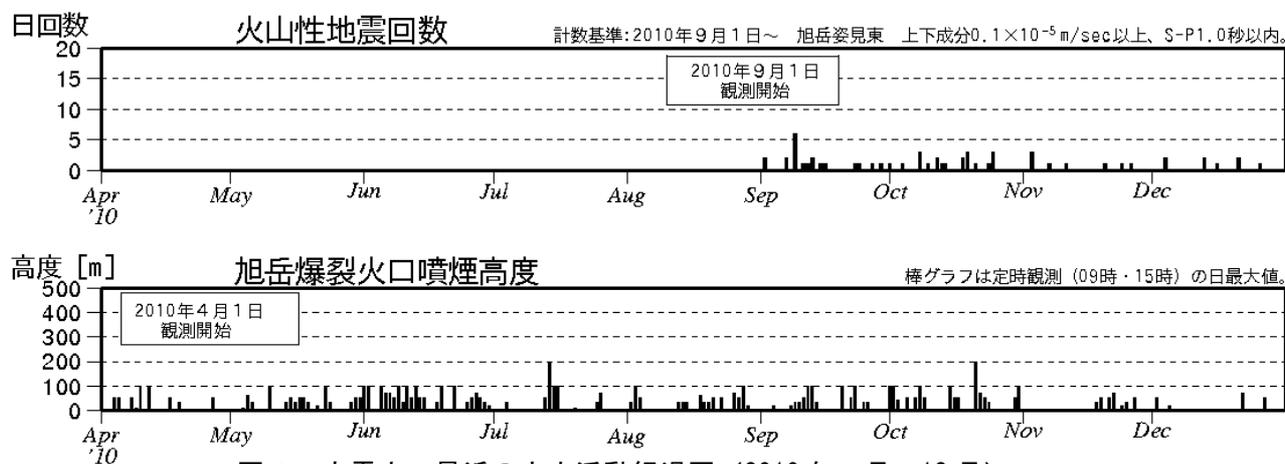


図 1 大雪山 最近の火山活動経過図（2010 年 4 月～12 月）

- 1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この資料は札幌管区気象台のホームページ (<http://www.sapporo-jma.go.jp>) や気象庁のホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。



図 2 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口からの噴煙の状況
11月18日 忠別湖東遠望カメラ（旭岳地獄谷爆裂火口から西南西 13.3km）による。
赤丸内が噴煙で、高さは火口縁上約 100m。

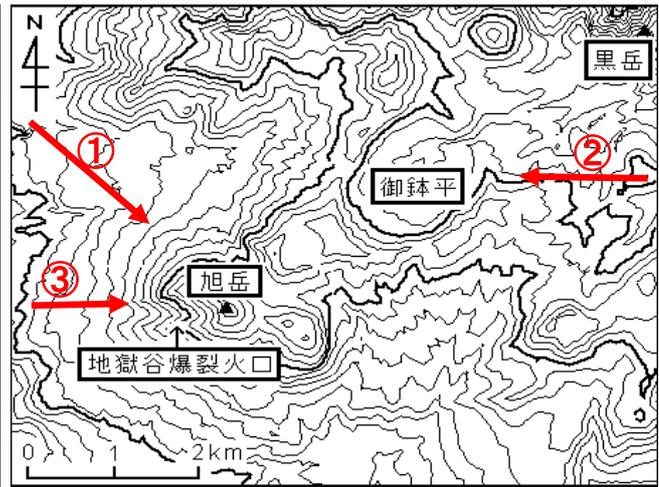


図 3 大雪山 周辺図
（矢印は写真及び赤外熱映像の撮影方向）

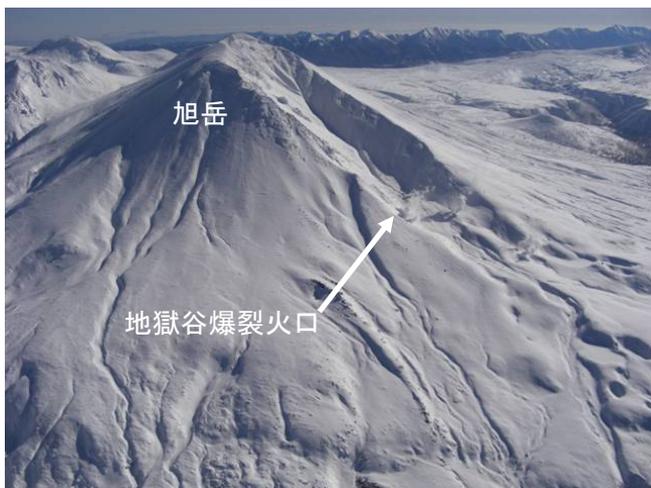


図 4 北西側（図 3 の①）から撮影した旭岳の状況
（11月18日撮影 北海道開発局の協力による）



図 5 東側（図 3 の②）から撮影した御鉢平の状況
（11月18日撮影 北海道開発局の協力による）

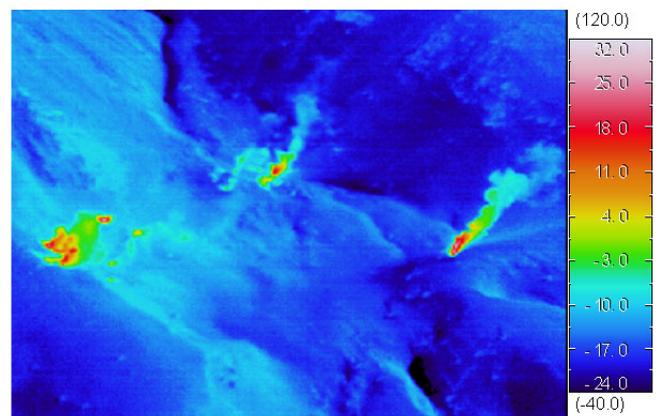
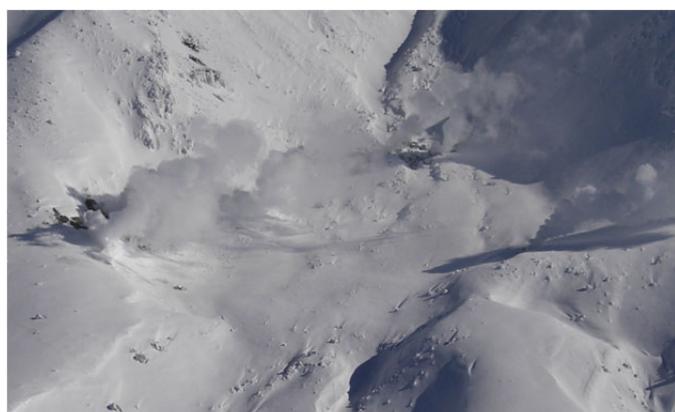


図 6 大雪山 赤外熱映像装置¹⁾による旭岳地獄谷爆裂火口の地表面温度分布
（11月18日 図 3 の③から撮影 北海道開発局の協力による）

観測点情報

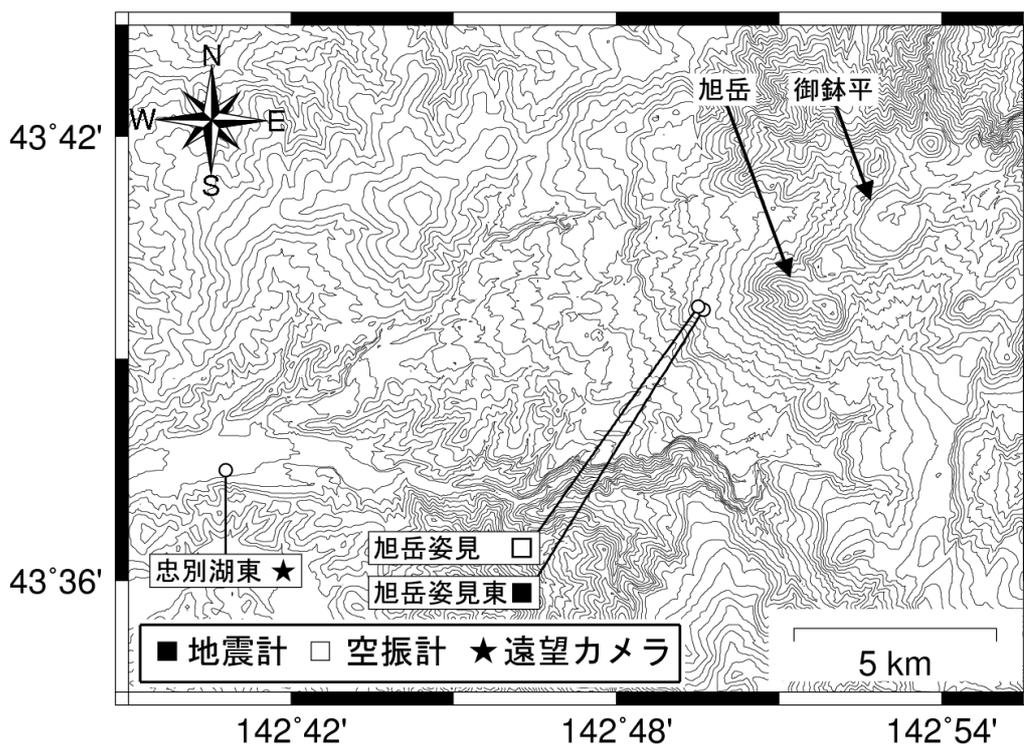


図 7 大雪山 観測点配置図

気象庁観測点一覧表 大雪山（緯度・経度は世界測地系）

記号	観測機器	地点名	位置			設置高 (m)	観測開始日
			緯度(度分)	経度(度分)	標高 (m)		
■	地震計	旭岳姿見東	43 39.66	142 49.62	1607	0	2010年9月1日
□	空振計	旭岳姿見	43 39.7	142 49.5	1592	7	2010年9月1日
★	遠望カメラ	忠別湖東	43 37.4	142 40.3	430	13	2010年4月1日